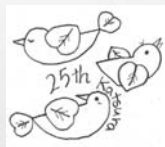
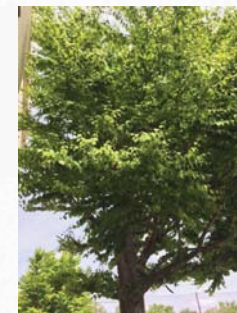


幼保小連携推進地区 桂地区 令和3年度の取組報告



桂地区

1. 推進テーマについて
2. 連携推進事業の実際
3. 成果と課題



1 推進テーマについて

育ちと学びの円滑な接続を目指して

◇設定の理由

その1：近隣の幼稚園、保育園に限らず、**20以上の園から入学**してくること

多くの子どもたちは、1人、あるいは2人程度で入学してくるのが現状。
慣れ親しんだ環境を離れ、新しい環境で人間関係を新たに築くことになる。



1 推進テーマについて

育ちと学びの円滑な接続を目指して

◇設定の理由

その2：幼児期の子ども**の育ちや生活を**（教師が）きちんと理解する

- 子どもが無理なく小学校生活に移行できる接続期カリキュラム（スタートカリキュラム）の編成
- 焦らず、指導できる（教師が）心のゆとりをもつ



保育や教育の内容を知り、よりよい交流のあり方やカリキュラムを検討することで、円滑な接続が期待できる。



1 推進テーマについて

◇推進内容

- 職員交流（情報交換・参観・講習・研修）
・・・・・・・・教育内容を知り、子ども観を共有するために
- 園児と児童の交流・・・・・・・・スムーズな接続につなげるために

◇推進地区2年目として

- 1年目の課題
昨年度できなかった職員交流を始め、具体的な取組を行うための情報交換の機会を増やし、全職員で幼保小の連携ができるようにしていきたい。



2 連携推進事業の実際

職員交流

【第1回推進委員会】 5/25（火）

今年度の担当職員の顔合わせを行った。
テーマや今後の方向性、年間計画について話し合い、子どもの様子について懇談した。

昨年度の課題を受け、この状況の中でもできることに取り組んでいこうという確認ができた。



2 連携推進事業の実際

職員交流

幼保小連携だけでなく、児童理解や特別支援にも役立つ。

物の配置、ルール、見通しの持たせ方などより丁寧で明確な支援のあり方が見られた。

【保育参観】 7/26（月）～ 8/24（火）（8/23・24は緊急事態宣言発令中のため中止）

夏休み期間に小学校の教職員が保育の実際の様子を参観した。

保育士の方々の支援の工夫や大切にしていることを学び、日々の教育活動に生かせるよい機会となった。特に、今回は全教員、調理員、栄養士が参観したことで、経験の少ない、また、子育て経験のない教職員にとっても就学前の子どもたちの発達段階や成長の様子を目の当たりにすることができ、実りの多い時間となった。夏休み明けの給食にもすぐに生かしていただいている。

積み重ねていくことの重要性を痛感した。

子どもを引き付ける技を自分にも取り入れていきたい。

野菜のカットの大きさや味付けなど、参考になった。



2 連携推進事業の実際

運動会

【保育園運動会】 10/28（木）

校長と連携担当の専任が参観。

【小学校運動会 低学年ブロック】 11/18（木）

園の職員が参観して下さった。

就学児や卒園した児童の育ちに目を向け、情報交換できるよい機会となった。



2 連携推進事業の実際

作品交流



【校内作品展】 <作品交流①> 11/29 (月) ~12/10 (金)

個人面談に合わせた児童作品展の期間に、園児の作品を借り受け校内に掲示した。児童が鑑賞する際には、園児作品も鑑賞するように呼びかけた。

園の職員も来校し、参観して下さった。園では小学校に持って行くことを伝えたところ、意欲的に作品作りをしたり、持って行ってほしい気持ちを伝えたり、小学校への期待が高まっている様子が見受けられた。



校内作品展 5年生がもみじ保育園の子の作品を鑑賞しました

「これはだれが作ったの？」
「もみじ保育園だって。来年くる子かな？」

「ハロウィンの絵は手や足の形をおばけにしているのがすごい。」
「ちっちゃい足！」「かわいい！」
「野菜の型押しは色がきれいだね。」



「自分たちで育てた野菜だって書いてある。」
「サツマイモのつるをリースにするのはいいね。」
「うれしかったらうね。」



2 連携推進事業の実際

作品交流

【保育園作品展示】 <作品交流②> 2/14 (月) ~ 2/28 (月) 予定



2 連携推進事業の実際

交流活動

【2年生年長児交流会】 <交流活動①> 6月3日・10日・11日

昨年度交流活動がコロナ禍で行えなかった当時1年生の児童が2年生となった。そこで、生活科の学習で保育園を意識し、今後に生かしていけるようにまちたんけんのルートの中に組み込み、交流を図った。

2年生 「保育園の子は小さくてかわいいね。」
「去年、学校紹介ビデオを撮ったね。」
「また会えるといいね。」

年長児 「卒園した〇〇ちゃんだ。」
「小学生は楽しそうだな。」



2 連携推進事業の実際

交流活動



【1年生年長児交流会】 <交流活動②～⑤> 10月18日～2月下旬

<主な交流活動>

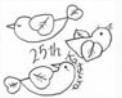
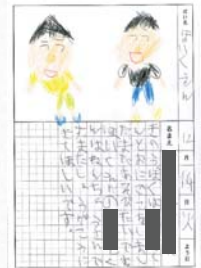
- 公園での出会い（10月18日）
- 学校での出会い（11月12日）
- 学校に招待、おもちゃ飾りのプレゼント（12月21日）
- 1年生ってたのしいよ（紹介）
WEB会議システム利用、または映像を送る（2月～3月）



保育園と事前に打ち合わせを行った。

公園探検に行く日にお散歩の時間を合わせてらったり、お散歩を校庭のそばを通りかかるようにしたりしてちょうど会えるように依頼し、繰り返し子どもたちが顔を合わせる場を意図的に設けて相手を意識できるようにした。

交流活動の中で、名札を利用したり、ペアを組んだりして相手を身近に感じて関わりを深めることができたように考えた。



2 連携推進事業の実際

交流活動

【6年生によるお祭り】 <交流活動⑥> 2月下旬予定

6年生の総合の学習で、保育園年長児にお祭りをする事になった。どの子も楽しめるよう、お祭りの内容を考えている。互いに名札を用意したり、学校の魅力を伝えたり交流を深めることができるように内容を工夫しているところである。

【5年生による学校紹介】 <交流活動⑦> 3月上旬予定



2 連携推進事業の実際

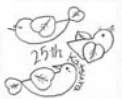


年長児は・・・

今年度は、コロナ禍ではあったが、小学生との触れ合いが実際にできたので、小学校に対する驚きや憧れの気持ちを持ったり身近に感じたりすることができた。

小学生は・・・

学習を進める中で自分の成長に気付くとともに、年長児が入学してくること、学年が上がることへの期待が高めることができた。



2 連携推進事業の実際



交流の成果と課題（次年度に向けて）

春から感染症対策を念頭に、計画的に少しずつ進めることができた。「どの小学校にいても楽しみに思えるように」と助言し、活動の思いを高めた。今年度はクラスごとに園を分けての対応とした。人数に偏りがあったが、それぞれの規模に合わせたかわりができた。



2 連携推進事業の実際

職員研修

【小学校授業研究会】 7/9(金)・11/26(木)

今年度の重点研では、低学年ブロックは生活科の研究を行っている。その中の2回の授業研の講師として、こども青少年局子育て支援部より佐野指導員、鈴木係長をお招きし、ご指導いただいた。

コロナ禍中であつたので、保育園から参加はできなかったが、生活科の指導に幼保小それぞれの育ちと連携の視点を入れていく大切さを学ぶことができた。



2 連携推進事業の実際

職員研修

【合同実技研修 ～手遊び・リズム遊び～】 2月下旬予定

もみじ保育園お勤めの外部講師を招いてご指導いただく予定にしていたが、コロナ禍のため、2度延期になっている(8/26→1/24→)。

保育園、小学校と合同で研修することで研修による学びとともに、職員間の交流も生まれることを期待している。



2 連携推進事業の実際

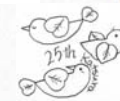
職員交流

【保育園保護者会参加】 2月下旬予定

保育園の保護者会で校長講話

【第3回推進委員会】

年間振り返り・次年度計画



3 成果と課題

◇成果

今年度も、コロナ禍の休業や分散登校、感染症拡大防止の影響が大きく、年度当初に計画していたことができないことが多かった。
しかし、その中でできることを連携を取りながら行ってきた。

新たに保育参観や職員研修を行い、来年度につながる取組ができたと考える。

◆課題

来年度は、推進事業最後の年である。今年度できなかった職員交流を取り入れ、全職員で双方向の幼保小の連携ができるようにしていきたい。

